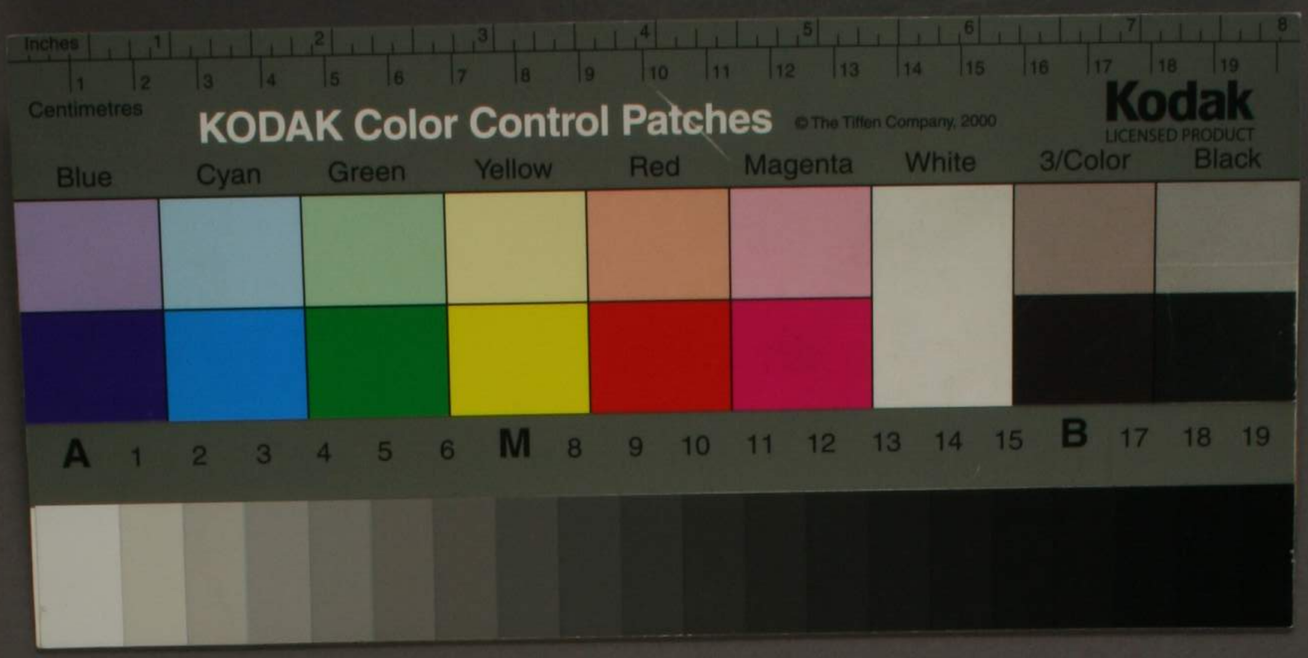
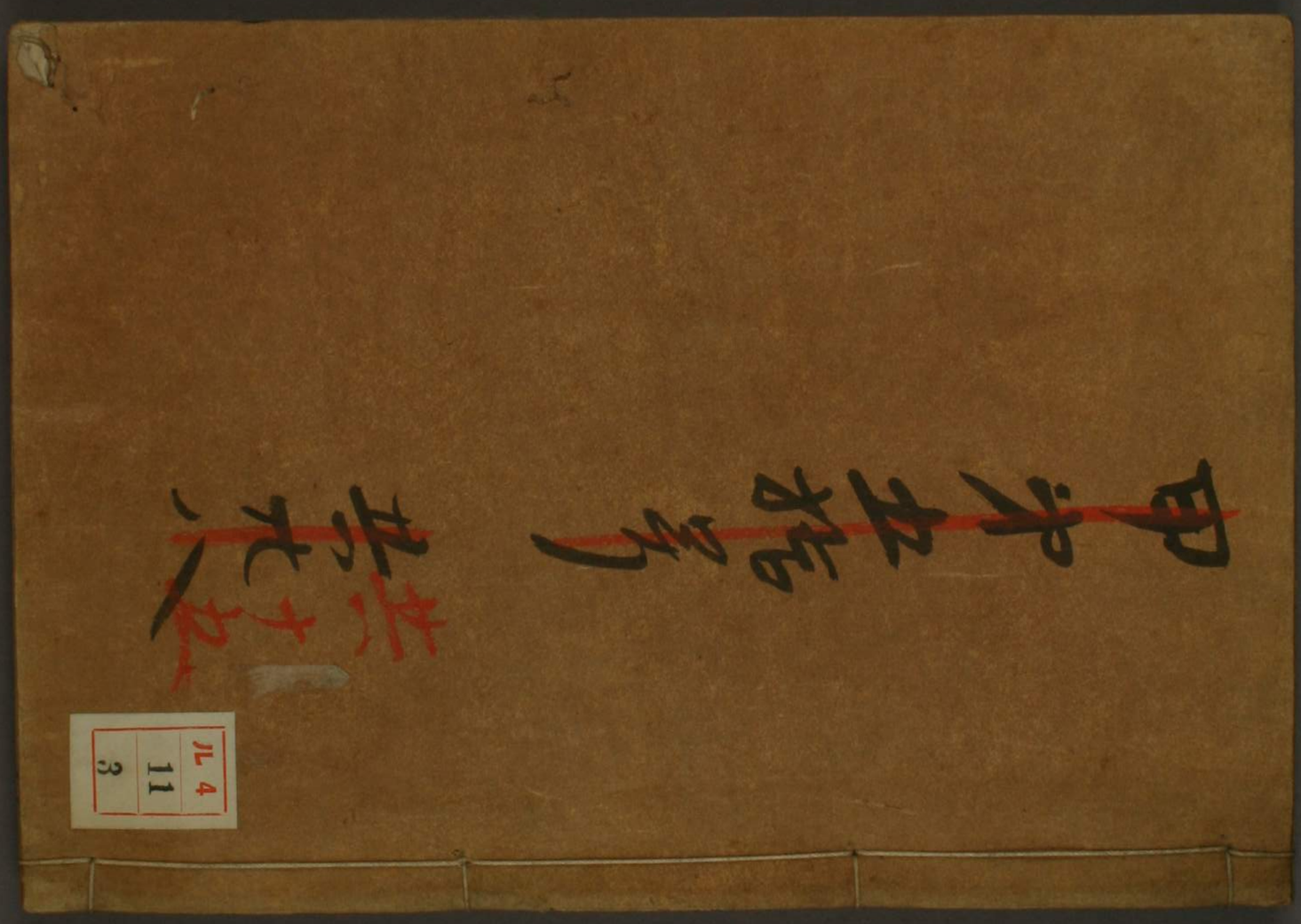

Inches
Centimetres
KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
Kodak
LICENSED PRODUCT
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black
A
M
B


JL 4
11
3

門 乙呂4
號 11
卷 3

東京專門學校圖書

能茂園續風土記之五目錄

收河殿 十九所

何吉社　妙圓寺　伊月菴香爲跡
[illegible]吉　[illegible]衣　[illegible]寺　[illegible]
[illegible]夷社　自性院　七ツ辻　[illegible]
東光院　馬出　[illegible]寺　[illegible]
[illegible]　文[illegible]　[illegible]　[illegible]

なし 郡中に福岡陣多なり瓦貨賤を交易せ
いるに思ひ大根岡の東西の中央にまゐりて四方に
送りの使とし国をうしまゐり郡なれハ昭所の名
称しとや

和名抄に載る所は郡の沖の名九なり

田本 日佐 今日佐三村なりよしかれ今日の事を田をなすと田のまゝ名を田 昭所 今本村の名なり

良久 海部 陣多 福岡の名 海辺をこゝろ 中條 陣多 古云昭所の辺を道世まそ中條とゝなりしや

これ云ふ日本の神の沖の海にのうるあり 海辺のこと 三宅 村の名也 今本なり

山口板岩

今称せる所の村の名

今泉村 茶院村 庄村 上野国村 平原村

言美村 牧乃村 中村 清水村 清原村 二重村

和田村 牧多国村 豆司村 片浦村 内野村 谷村

若久村 石野原村 中原 西原村 東原村 久之

村 西畑村 今光村 所所村 井原村 今作て井原と云

南西里村 二郡 民竹村 上城竹村 不入谷村 山中村 太

自山村 石枝所村 今作て石千里さまく 東海門村 北所村 小井内村 又大野村 小野村 小野村 浅野村

一流村 石谷村 陽塚村 今作て陽塚村 山田村 山田村

仲村 山野村 安徳村 上堀原 下堀原

金沢名村 松本村 今石村 仲原村 上泉村 下泉村

王石村 深長村 上野国村 上日佐村 下日佐村

横手村 浜田村 浜田村 小倉村 妻目村

丹波田村 雑賀隠所寺属し 友那村 [illegible] 法国村 [illegible]
板谷村 [illegible] 丹原村 [illegible] 今川村 [illegible]
竹下村 [illegible] 東光寺村 比恵村 住吉村
[illegible] 三吉村 [illegible] 黒糟村 [illegible]
[illegible] 三宮後村 [illegible]
堂六十三村 板村三十九

住吉社

住吉村より有之 [illegible] 神名帳ニ 筑前 [illegible]
住吉の社 三社 [illegible] 住吉村ニ [illegible] 村の南
古所ニ [illegible] 住吉明神 [illegible] 村の名ニモリ
九住吉大神ニ 庚申 [illegible] 中 [illegible] 表 [illegible]
命ニ三神なり 山三神ニ 住 [illegible] 筑前 [illegible]
の宮の [illegible] 四方の沼縁と [illegible]
[illegible] 時代 [illegible] 九神の間ニ 神代より [illegible]
[illegible] 日本の神代 [illegible] 日住
[illegible] 沼縁と [illegible]
別住 [illegible] 日本の宮の [illegible]

[illegible]の[illegible]にあり石の外今は寺ニ[illegible]の所
住牌七院ヨリ石ニ祀也
春光院殿善巌宗卜　黒田下野守重隆
心光院殿満譽宗円　黒田美濃守織隆
梅渓院殿天秀妙真　忠之公之前室　松平氏
東陽院殿五峰宗仲　前黒田甲斐守長興
宝巌院海寿宗鎧　酒井雅楽頭忠明之室
勝眞院殿月岩宗照　後甲斐守長重之室
太平源院南英宗菊　光之公之男市之助是

秀海墓

[illegible]

石[illegible]の[illegible]に[illegible]七日の法を[illegible]
[illegible]浦[illegible]称し天[illegible]
[illegible]方を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

澳夷社

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

と書きしに其後まもなく閉まそ出方の内
又はかかる事を聞きしに一年を志賀上茶陸
國志に曰寛文三年の秋茶陸國千代村之
五郎とあるまゝ不催と改おたり催の内に
甲冑を乃かしと得この器五流の口り百年
ゟ有陶器を切り其の口りに匠をさゝる諸
ことしらふ其又同し類なり

茶陸村

曰村者今の茶院所に有福岡の路を挑き
ゆゑ後位に所を立られし内今の市に後ゟ
青ゟ美國より陸ゟ多くに井の器し内茶陸ゟ多く

後りしと曰石に茶圃を植へて種しはかりなれ
茶陸ゟ市里人口り茶陸村の上の山と石突
山ゟ云ふ曰村の茶青を激へし作此成しれ陸
国の語なしこゝ曰村の北方村より
寛永年中飛と陸出たり其内に来多く
入しことてりかゝる事は所にて往こゝ有る事也
青茶を出し寛永年一説に村
の曰青の茶陸村に今の青ゟ曰まのあた
りにあり今の茶陸町の物は青後方へ迄
行の大名の物なりしかは馬市を立へ也て
茶陸村の氏茶を茶陸町に後をり福岡

有夏ハ九迂の附惟し休ゆ山西とき傳り

大流谷

福岡縣の南の山方より長岐ニ入國の後大流といふ西とぞ云ふ山あり名付く其後其南の谷より人家多く出来て町となり其地を和大流の谷とも云ふ有大流谷と名付し谷にて人家多くて石大流谷と稱せ谷の名各書り郡氏ヲ連り名付し又此西の方山谷の方人年而ことに氏族多くも和たり

大休附息火

大流谷より西の方西坂山女原岡谷馬原谷の

よこうまで而より大休とて桃実の頂と而へ諸物を卸して釋り休ひ所有其より東西小三方を眺ゆし其頂に昭昇廣く山水の象其ゆうなりし其所に就きし山の風景にいとしき所にて名をすり御戸明れ和方間天傳之教諸法所の花束とも云ふ恐らくはとまるべからず又此辺六年相とり所有其冬に沿らせ来る所ゆおり事を言ふ事を能く定ゆ所にしく辺其間ハ云ふ云ふ人也其所に西東より出ゆ事多し而しく東とも云ふ事ゆ其北也其五月より有ゆ所にて福岡縣の大事を居に人別し事ハ有ゆ者へ

陳ニ十四ヶ所ニ洋ニ至ル石屋ニ有リ谷ニ事佛二万
或ハ人斗横七人ニ余ニ合横三人斗ニ当サ七人ニ分有ニ
ハ其ニ山石屋ニ有リ口ニ南ニ向リ是ニ至テ上ニ石の
ニ在ニ其ニ附ニ民ニ居ニ有ニ矣

手附薄村

近代洋ニ事附ニ書ニ其ニ有ニ手附薄ニ書ニ殺
手ニ在テ其ニ有ニ実ニ有ニ二ヶ所ニ事ニ有ニ石の名ニ有ニ
ニ有ニ其ニ有ニ居ニ手附佛徳ニ薄ニ有ニ也

柏河村

柏河ハ和名抄ニ高殺の今の名ニ在ニ今ハ一村
の名ニ在ニ此ニ高殺ニ村ニ有ニ柏河村

の間ニ有リ後ニ有ニ三村ニ有ニ有リ九今の名村の名
ニ有ニ其ニ殺の名ニ在ニ例ニ説ニ因ニ有ニ殺の名ニ以
間の名ニ在ニ云ニ云ニ有リ

泉村大陳

上ニ泉村ニ有ニ陳の中ニ廣ニ伎ニ有ニ伎の実ニ長ニ
有ニ其ニ以陳の事ニ大ニ在ニ以陳ニ在ニ有ニ大陳ニ有ニ今ハ
田ニ有ニ有リ其ニ田ニ町ニ有リ以陳ニ有ニ殺ニ小陳ニ有リ
ニ早ニ勉ニ伎ニ人ニ為ニ宮ニ今ニ文の物ニ土ニ有ニ云ニ
大陳ニ有リ此ニ有ニ選ニ下ニ有ニ用ニ有ニ此ニ柏の大陳
陳の土地の相計ニ千六万ニ水の佛ニ殺ニ有リ因
中ニ在テ以陳ニ宮ニ流ニ殺ニ佛ニ湯の陳ニ殺ニ殺

行縄湯の道一中ほどこゝに國中の産地と称せ
りまゝ才一安能才二性土殺井原の西の号根原
才三土ほ水なり也

火倉村

同村のうちき安のとすゝ夫なり墓三十六有所こに
殺其土と土をあたけ又同そ土墓なり嶺背
あり名の用人の弁りしや和しまゝ

岩戸河内

行縄村より上安法村まゝて九十二村有仲村
也相本今光原ゝ後能原限西限安法中
原行縄なり同十二村其ゝ仲村の流人大明神
と出て光神ゝ出て九河内ゝ一谷の間に枝村
連ゝ古ゝ始ゝ河内ゝなり

院仗寺

別府村の枝村ゝ今ハ近て井原ゝ居ゝて曰
元明天皇の御宇和銅二年に宵根山ゝ住とし
名湯湯巻ゝ人院宣ゝ五ゝ年ゝ至ハ
五子の御怪ゝ加持其の為ゝ出ゝ彼ゝ湯巻
上人ハ沼ゝ為ゝ帝ゝ勅ゝ又同院仗の
りしゝ寺なれハ已ゝ院仗寺ゝ居ゝ
今ハ寺ゝ無なりはれハ其沼ゝ鎮ゝ
其後ゝ湯巻ゝ本係有

次郎村

前浜村の枝村松原といふ所にある大明神の社なり
次郎と云ふ山伏ある敬神のものにて且和漢を能
知る天正の比出羽に在住しけり事を能し
思ひ石田三成と云くの語を分り存りとして
斬罪に逢ひけり実に哀れなり 次郎が末と名付し
村は是を祀りし村中に寄り崇敬す武神と云ふとも是ハ
手に取り栗田浦村の寺にて石田三成と称して次郎を
村とり武神光岡として次郎ハ右の縁と喜々
次郎いふて日本の一命を捧げ右の縁と敬ふの正道
又かくのことし前を弔ひ後武神祀る
武神として武神と云はせと名付て其社を建てらる
次郎大明神と称し十月廿日祭ある又其社松原乃
事は此の上に出て田の守護 其御天日も山岩もの
山神大神様五々共に深き寺の内田守あるべしとそ
とふ

後池村

此村に西ある寺をば古寺の跡なり大寺なりしとや
古へ風をよりくる悪を祓われし文書村民の秘蔵
又其前に開かり一丈六尺ある大揃なりしと云ふ
二年の比炎上の材木よきを以てとし印を立て置を施
しよりすみ分けある寺を施しえりてより五年に名あり

石灰植土にて是をつかひ又中に石椎有又中に人の
骸骨有肉と未にしつかなり未霊しは此家を
なすより五尺四斗ばかり石椎の門に其人横さて人
臥すなりし石の面てゝ文字をなれいいかなるを
葬りしにや和歌に雑し石の葬を
祀しとて理ひしをこれ法なりとて又側に石の小椎
なりし是五尺程石の口巻をなすなり

南面里村

山田の川向ひ西のうきは西にかゝる村也山田の此より
人上方にて田まる地にかゝる此村南に直に石に名付
南面里の所にしきれ其和泉国大鳥郡枝屋の

通にして南面里といふ所なり

戸板試

南面里村の枝村にて戸板といふ所なり東村の上にて
ふ所にまゝ五尺にて岩戸とて二万手根の産井
面八分ほ人なり大数なり民俗の説ゆゑ天照大神
岩戸にて宮殿なりし世の所の行戸にして石の行戸に
大和国宮戸村行戸明神宮なりといふ加様の俗
説々世にあるは事なれは是非と弁ずる力
ないと事なり宮なり大岩なれは石なり民の岩戸を
言ふわやうなり岩の面は東に直り又西に大
の仕様と判付なり其儀なり其ゆゑ人を言ふ

山田村

遠敷之國の南中手にて有遠敷之國より南の山ろ
別に一河内有平田なり是山田村の隣内なり
山中なれ共二廣くして平成年大祥石の如し
高田なり凡山村中土地張にして多く菜
蔬と作る又山村の上四方相まれて石の西なる
田の中に西長き塚なり昔いかなる内也今
我ありし内殿と理ミし所ゝ呂り

一ノ瀧ゟ

山田村より有是神功皇后の隣にてかつて刻石の
淺の水とかなる山水とりしてよかる田地にてこれ

神田と作らせかつて為神后の初てせきたる一井
ゟ為下二井ゟの廣井八十万有大井ゟなり
山形にあらはれし山岡にて是花大瀧ゟ又
別に又是山水山田安津東張仲村ゟ流れ
和木今光九七村の田地百五十町余陸山井ゟ
の水をいてうりとさり

仲人大明神社

山社ゟ地ゟ北ゟ西の川上大明神とかゝる是神功
皇后の山陽ゟ山城の国仲人の山
自三丈の山陽ゟ山城の国仲人大明神
ゟ山ゟ殿祇園神有神體ゟ木像にて右の

いふ山形の鎮一の堆まより上たるをいふ神の伏
とし里民迎りとして花らせて山井まとりまに落
ちしに神の君まゆりとりとし君の奥のとらく
花て咲也

馬瀬

山田村の西より門にてその流をいふ鎮國の
とき里民伏ひて天兵を天下無用より来ふ
とき祐馬を祈り山流と鉄かしふ花まてその流を
いふ山流は神人の法なり其水を兵せらるゝ
是らせて今世の人はこれ祐助皇后三韓より帰
らせの中に依山まよりかゝり山流馬をも

後らせ中に宏光彰言伝へしやそ天皇の兵を天に
無神之皇后所行とより始らせ給へに彰言伝へる
なし年

雅原村

よ下五村を合るに上の名也 四方を山有穴方
中を帝の里となり 流国長井 武里斗かり民俗
言伝ふ古ハ雅原帝の御所ニ御所ニ住りかれ
村の名をもて天下の帝の御名を手ことの名を
いふ也 帝の御所ニ帝の御の居たりし居事なり
雅原平三ヒいふ也 其長の居たりしかふ

四竹間仙

北茶の間の間と宅町屋りとて又本山関と又東山
河間とも云ふ大阪と東山河間とも谷老まり大阪は
民家七八分有 稀有 山の間なり川の西に関へ
の間と北茶祇 稀 西山河間の枝村あり民家三
三軒有大阪村二三町茶より左に仰ひ居る北茶
関西屋新村へ跡の所なり山河と境界有北茶
北茶の境なり大阪より南の方北茶の間と四
六町通り川を越し又北茶に入十町余り仰て見
あり地横山とて山所祖神西に有又鳥帽子
岩とて山石あり地横山より北茶の方と四町斗
仰けば彼関より里に有る東山河間を経れしかば

六町有東山河間村のかゝ里落とて絶き関有関の
よく氣分好ある所有昔は此の山寺の児と居
りかゝ居まりして居さんとて山関のまわり大木多樹
本と児とよせ経にてかゝけ対かゝる石落して
彼児本と歴れて死とりあるに里落とて東山河
間の川向まる村と西山河間とて是も北茶の
間なり民家有東西二村なるべきに村と云
ことのことなれども関とまちまとりまゝる後に六の
山川と隔て大阪を北茶の間なるべくして北茶
なり西山河間は北茶の間なるべくして北茶あり
九関新とあつまこう山右に山を出て境と思さるを

右録入伏我 君右注而延今書別録申候
篤信 ありそうに消延田歌
心主にまとりて
らとてきれ石ミ
赤ま田歌
をと事と
方たのたより
著宮と田経信
かりそ歌に
そ信月明
りり 枝葉

又共者て 物ゝ主ゝ月ゝ同て来
まの日経信て 枝葉
ゝりり 沙ゝ好ゝ
田の歌云」 田歌の代ゝ
代ゝ ゝ 今月経
ゝ 歌ゝ 枝葉
社ゝ はゝ 歌限ゝ
限ゝ ゝ
のゝりゝ

右歌に我ゝ
石田 大岡 歌ゝ

今宿上之原村のうち

上臼井村（坪宮村 属し）上臼井村 吉本村（鷹田村 属し）千の石村

（横井村 属し）上月隈村 下月隈村（上村 村属し）古家 三ヶ所寺村

今隈村

　　四五 八村 枝村五

今隈

津は立花と席田郡との境なり 吉の中村と今隈とのあわひ 青木村の南に尾崎とて高き所より出たる山の尾あり 又よき宮所多し 其西の谷ある所に宮跡ありて 南の山上に又其跡をたの宮の前なりし 高祖 今宿ハ西と隔て

和し 此宮寺の跡又今隈の事ハ山上に石段あり 中古より是ハ猪人物の住し後とかや 是れ根岸て其石年々ふとし て光あり 其石のすミ大さ 根ぶ見えたりとも少の石の影より東近き極石多し 彼の石段上方に 菱野村にハ古き石段とてかやうなるもの有し

筑前国続風土記巻之十六終